

【子どもたちにがんを教える「がん教育支援員」が活動を始めました】

平成29年12月18日～20日 佐賀市赤松小学校



12.22

赤松小でがん教育授業 予防の大切さ学ぶ

患者ら体験語り教壇デビュー



児童らにがんについて教える宮地智寿子さん
|| 佐賀市中の館町の赤松小

佐賀市 佐賀市中の館町の赤松小で18～20日の3日間、4年生の3クラスを対象にした「がん教育」の授業があり、児童は医師らの話に耳を傾けた。がんに対する正しい知識を持つてもらうためにがん患者らが自らの体験を語るボランティア「がん教育支援員」も初めて教壇に立ち、児童が講話に「すごい」と声を上げる場面もあった。

佐賀県医療センター好生館の佐藤清治副館長と同小児科の稲田浩子小児科部長が、医師の立場からがんについて話した。がん啓発予防などに取り組みNPOクレブスサポートの養成講座を修了した「がん教育支援員」の宮地智寿子さん、進藤和美さん、荒木さとみさんらもデビューとなる授業に臨み、自身の体験談を語った。

稲田部長はバランスの取れた食生活や体に異常があれば早めに受診するなどがんを予防するポイントを教え、「予防できることは予防して、起こってしまったことはすぐに解決して」と呼び掛けた。大腸がんを経験した宮地さんは、病院に行くのが怖かったが友人の勧めで受診を決意したことなどを振り返り、「体や心に変調があるときは、すぐ誰かに相談して」と語った。

児童らは「いろんな気持ちで生きている人がいることを考えて生きていきたい」「命の大切さがわかった」などと講師に感想を伝えていた。(花木芙美)

平成29年度がん教育支援員養成講座(6月～8月)を修了して自主的にとレーニングを積んできたがん教育支援員(CEサポーター)のうちの3人が赤松小学校でがん教育授業の教壇に立ちました。上はその時の画像と新聞記事です。

平成30年度のがん教育支援員養成講座は、5月から一般公募して6月～8月にかけて計6回、佐賀市内で開催します。学校現場でがんについて教える外部講師(がん教育支援員)を養成して小学校に派遣します。養成講座はがん患者・家族の皆さんを中心にだれでも参加でき、無料です。